



謹賀新年

2022年・令和4年が、幸せな年となりますように。

新年のお慶びを申し上げます。昨年(2021年)の12月24日(金)に行ったウィンター集会(後期前半終了集会)で、全校児童に「一年の計は、元旦にあり」のことわざについて話しました。このことわざの由来は、2つあるそうです。一つは、中国の明の時代(1368年～1644年)に、馮慶京(ひょうおうきょう)という学者が、月令広義(げつれいこうぎ)に著したとされています。もう一つは、戦国時代の武将の毛利元就が、1558年に、長男の毛利隆元へあてた手紙に教訓として書かれたとされています。その意味は、「新しい年の計画は、年初めの元旦にたてなさい。その計画を実行していけば、その年は、あなたにとって充実した良き年となりますよ。」ということだと私は解釈しています。清里の宝子たちは、元旦にそれぞれの一年の計をたてたでしょうか。子どもたちにとって幸せな年となることを心の底から願います。また、ご家族や地域のすべての皆様に幸せな年となりますように心からいお祈りします。

ひきつづき新型コロナウイルスの感染防止のための予防に努めましょう

熊本県内の新型コロナウイルス感染症の感染者が、また増えてきています。オミクロン株をはじめ油断はできない状況だと思います。1月20日(木)～21日(金)には、6年生の修学旅行が予定されています。なんとしても修学旅行は、実施したいです。ひき続き感染防止にみんなで努めましょう。このまま感染症が終息に向かい、子どもたちが、安心して学ぶことができる日常が1日も早くもどることを心から願います。



感動の持久走大会

2021年12月18日(土)

子どもたちが体育の授業で、がんばって練習してきた成果を、多くの保護者の方々からの応援をいただきながら、持久走大会で見せてくれました。コロナ禍にあって、1、2年生には初めての、6年生にとっては、小学校最後の力走でした。子どもたちは、自分がたてた目標達成に全力で挑みました。その走る姿に感動しました。特に6年生の力走は、すばらしかったです。中には、昨年のタイムより7分近く速く走ることができ、みごとに目標を達成した子がいました。その子は、練習の時からひたむきな走りを見せてくれていて、私にアニメ鬼滅の刃の煉獄さんのような感動を与えてくれました。子どもたちのおかげで心がとても元気になりました。

ニューイヤー集会 後期後半が始まりました

1月7日(金)

楽しい冬休みを過ぎして、笑顔で子どもたちが登校して来ました。体育館で1年生から6年生まで全学年が集合してニューイヤー集会(後期後半開始集会)を行いました。子どもたち一人ひとりがたてた「一年の計」を実行して、充実したすばらしい年となるようにみんなで確認しました。

2022年・令和4年も、子どもたちが、交通事故や水の事故等に遭わないように、そして、新型コロナウイルス感染症を克服できるように91名全員が過ごしてほしいと心から祈ります。

清里小人権集会 ～みんなが幸せになるために～

12月7日(火)に校内人権集会を、みんなが幸せになるために行いました。1948年12月10日の国際連合第3回総会で、世界人権宣言が採択されたのを記念し、1950年12月4日の第5回総会において、この12月10日を「人権デー (Human Rights Day)」と定め、加盟国などに人権思想の啓発のための行事を実施するように呼びかけているのを受けて、熊本県では、毎年12月10日前後に、小・中・高・特別支援学校で人権を学ぶ授業を行っています。コロナ禍で、去年は実施できなかったのですが、今年は低学年と高学年に分かれて実施できました。



1年生の手話を交えた合唱



2年生の劇を通じた発表



3年生の行動指標の発表



オンデマンド配信を見て学ぶ子どもたち

低学年集会では、1年生が「くやしかった こと」という、だいたいな名前をいやな呼び方に変えて呼ばれて悲しむ子が、その気持ちをクラスに訴えて、思いを伝え、一人ひとりの名前がだいたいなことをみんなで学習し、自分の名前の由来を一人ひとりが保護者から聞き取り、集会で発表してくれました。「友だちになるために」を手話を交えて歌ってくれました。

2年生は、人権学習「ぼくのランドセル」で、相手によって態度を変えること(差別)のおかしさと、気持ちを伝え合うことの大切さを学び、学習したことを劇にして表現してくれました。そして、2年生として、いじめや差別をなくすために、これから何をしていきたいかを一人ひとりが発表しました。

3年生は、人権学習「わたしはバイキンなんかじゃない」で学んだいじめや差別のおかしさを、一人ひとりが自分の体験や経験の中であつたことと重ねて作文に書き、学級代表として2名が発表してくれました。低学年集会は1・2・3年生での集会だったので、3年生が、上級生として、また、人権集会を経験していない1・2年生にお手本となる発表をしてくれました。いじめや差別のない学校にするために、具体的な行動指標を文字にして、みんなに伝えてくれました。

高学年集会は4・5・6年生が、1998年からはじまった部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会のオンデマンド配信を観て学習しました。熊本県教育委員会が主催するこの集会は、例年ならば熊本市のパークドームに、熊本県内のすべての地域の小・中・高・特別支援学校から集会参加を希望する約1万人の子どもたちが参加して行われてきた日本で最大規模の、子どもたちによる人権子ども集会です。毎年、小・中・高・特別支援学校の各学校から、

自分が体験した、いじめや差別、学習したことを通して、自分を大切にすると共に他の人もたいせつにするメッセージを特設ステージから発信してくれる、すばらしい人権教育を学ぶ集会です。日本一の人権子ども集会だと思っています。今回は残念なことに、新型コロナウイルス感染防止のために、パークドームにみんなが集まっていた集会ができませんでした。しかし、オンデマンド配信によって開催され、学習したい人は全員が視聴することができることになり、高学年の子どもたちみんなで視聴して学習できました。中でも山鹿市の鹿本小学校の発表は、学校の近くの医療施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、懸命に治療や療養しておられた方々に対して、誹謗中傷がされたことを知った子どもたちが、施設の医療従事者や入所に対して、手作りの温かい応援メッセージを届けたり、登下校時に感謝の気持ちを、手を振ったり、声に出して届けたりしたものでした。清里小の子どもたちは、その行動に感度して、自分たちも鹿本小のような行動ができるようになりたいと感想を述べ合いました。確かな学びができました。